

青春

～アオハライド～

ride

三十三期 月日を重ねて 1人立つ =「青春」 青春に乗っていこう!

大分県立大分豊府高等学校
1年部 学年通信 第10号
2019年1月21日発行
文責 1学年主任 秋月伸二

あけましておめでとうございます。いよいよ平成31年がスタートしました。平成31年は4ヶ月間の期間限定です。うまく次の元号に繋がられるように、気持ちを新たに様々な活動に頑張してほしいですね。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年は2年に進級、そして『修学旅行』が待ち構えています。今回の学年通信は、現2年生の32期生が昨年実施したカナダへの修学旅行について特集したいと思います。日程は33期生が計画しているものとほぼ同じです。33期生は32期生の実施状況をふまえて今後内容を精査して実施していくことになると思います。

32期生カナダへの修学旅行について

1. 日程

1日目	学校 → 大分空港 →(乗り継ぎ)→ バンクーバー空港 → → UBC(ブリティッシュコロンビア大学)キャンパスツアー → ホストファミリーと合流
2日目	ホストファミリー → 現地の高校と学校交流 → 班別自主研修 → ホストファミリー
3日目	終日ホームステイプログラム
4・5日目	ホストファミリー → バンクーバー空港 →(乗り継ぎ)→ 成田空港 → 東京泊
6日目	宿泊先 → 東京都内班別研修 → 羽田空港 → 大分空港 → 学校

2. 出発まで

1年次の「総合的な学習の時間」では、自らの足もとを知る、という趣旨から故郷大分や日本について調べていきました。自らの興味関心のある分野で、課題設定をし、掘り下げ、発表を行いました。2年次はカナダへの修学旅行を鑑み、自らの興味関心のある分野について、日本とカナダの比較を行い、可能であれば現地調査も実施しようと準備をしてきました。カナダの現状を書籍やインターネット等で、調査研究し、知識を持った上でカナダへと出発しました。また、事前研修としてALTベサニー先生と英語科で国際教育担当の安部憲廣先生から、異文化理解についての講演をしてもらいました。修学旅行では、ハンズワース・セカンドリースクールとの交流活動もあるため、修学旅行実行委員会を中心に、学校、郷土、日本文化の紹介の準備を進めてきました。

3. 帰国後の生徒アンケートの結果

【評価の基準】 ④. あてはまる ③. どちらかといえばあてはまる ②. あまりあてはまらない ①. あてはまらない
(すべて%で表示)

A. あなた自身の修学旅行についての評価

- ①総学などの事前準備をしっかりできた。
- ②充実した6日間であった。
- ③健康に過ごすことができた。
- ④ルール(時間・服装など)守って過ごした。
- ⑤英語を積極的に話した。
- ⑥異文化への理解が深まった。

	④	③	②	①
①	48(%)	43	7	1
②	80	19	2	0
③	68	22	7	3
④	87	12	0	0
⑤	59	34	6	1
⑥	73	25	2	0

- ③について ・かぜ症状、発熱、腹痛等の症状を訴えた生徒がいた。今回、現地で病院受診に至るケースはなかった。
- ⑤について ・グアムでは8割台にとどまっていたこの項目だが、今回は評価3と4あわせて**93%**であった。
・文法に自信がなかった生徒も、伝えようとするのがまず大事だということを学んだようである。

B. 修学旅行の諸活動についての評価

- ① UBCキャンパスツアーに満足している
- ② 現地高校交流活動に満足している。
- ③ 半日バスツアー・市内自主研修に満足している。
- ④ 東京都内自主研修に満足している。

④	③	②	①
62	33	4	1
56	37	7	0
74	24	2	0
51	34	13	3

- ①について ・全体的には大学生の英語は聞き取りやすかったようで、コミュニケーションを図れた、海外の大学と日本の大学の違いを知ることができたという意見が多かった。ただ、班の人数が8～10名だったこともあり、満足いくほど話せた生徒とそうでなかった生徒がいるようである。また、生徒の中には、学問内容についてもっと深く知りたかった、大学の講義を受講してみたかったという声もあった。
- ②について ・各校からの挨拶、出し物等から始まり、後半はUBCの研修班と同じメンバーにハンズワース校の生徒3名程度が付き、校内の案内や現地の遊びを行うなどし、交流を図った。本校からは、「修学旅行実行委員による学校、大分の紹介」、「書道部による文化紹介」、有志による「英語落語」、「ダンス」を披露した。

C. ホームステイについての評価

- ① ホームステイに満足している(全般的な満足度)
- ② ホストファミリーとの1日に満足している。
- ③ ホームステイで、学びや気づきに繋がった。

④	③	②	①
71	22	5	2
76	19	5	0
76	22	1	0

- ①について ・ファミリーの心遣いに感謝をしている生徒が非常に多かった。
- ②について ・ショッピング、ハイキング、観光地巡り、スポーツ観戦等様々な過ごし方をしている。ちょうどハロウィンと重なったため、ファミリーとハロウィンの準備(ジャックオランタンづくり)等を行った生徒も多数いた。

4. 気づけたこと (生徒の感想)

- ・海外の人の心は広い。
- ・ファミリーも自分たちに良くしたいと思ってくれていること。
- ・文化の違いと日本の良さ。
- ・伝えることの大切さ。言葉にしないと伝わらないこともある。
- ・文化の差(家族を大切にする・男女が協力しているなど)を知れた。
- ・英語の必要性。
- ・英語で理解すること。(いちいち日本語に変換しない)
- ・文法がまずくても伝えられるということ。



5. 32期生学年主任のまとめ

出発までは不安を抱いていた生徒も多かったようですが、カナダの雄大な自然や人々の温かさに触れ、満足して帰ってきた生徒が多いようです。また、英語が通じた嬉しさ、もっと伝えたかった悔しさ、この両方の思いが、帰国後の英語の学習姿勢にも、よい変化をもたらしています。

ただ、2%の生徒が「あまり充実していなかった」と回答しており、全員にとって満足な旅とならなかったことは遺憾です。今回生徒の生の声を集約することで、より生徒にとって有意義な旅行とするために改善すべき点も見つかりました。そうした事柄は、次年度改善すべく、校内で可能なことは対策し、業者にしかできないことは働きかけを行っていきたいと考えております。今回、修学旅行後にいただいたご意見は、示唆に富んだものであり、この貴重なご意見を活かし、次年度の生徒にとってよりよい修学旅行づくりのために努めて参ります。

※ 出発まであと9ヶ月です。それまでに自分の思いを伝えられるだけの語学力をつけておきたいものですね。